

手を握らずに親子



令和5年8月発行 登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No. 24

親子でホッとひといき!!



“読み聞かせ”で絵本を一緒に楽しみましょう♪

子育てに励まれているみなさん、毎日忙しいお時間を過ごされていることと思います。本当にお疲れ様です。

現代は、スマートフォンやパソコンの普及とさらなる利便性の向上がめざましく、さまざまな情報の収集、伝達手段の主流となっており、私たちの日常生活において、なくてはならないツールとなっております。でも、そんな時代だからこそ、少しの間、スマートフォンやパソコン、テレビなどから離れて絵本を手に取り、お子さんと一緒にゆったりとお話の世界を楽しみませんか？

1. 毎日でなくても…

“読み聞かせ”は毎日、子どもが寝る前に…そんなイメージがあるかもしれません。でも、毎日でなくても大丈夫です。そして、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん…お子さんとかかわりのある方ならば、どなたでもかまいません。時間や気持ちにゆとりがある時に、まずはじめてみましょう。

2. 絵本を選ぶのに迷ったら!?

“読み聞かせ”にどんな絵本を選んだら良いのか？一番悩むところですね。次のページにおすすめの絵本についてまとめましたので、参考にしてみてください。そして、ぜひ市立図書館などに出向いて、実際に絵本を手にとることをおすすめします。図書館の児童書コーナーには、さまざまな絵本が並んでいます。季節や行事などに合わせた絵本や、新しく入れた絵本など、特におすすめの絵本は、表紙が見えるように並んでいることもあります。

なかなか絵本が決まらない…そんな時に強い味方になってくれるのが、図書館司書です。司書は本のプロフェッショナル。気軽に何でも相談してみてください。お子さんの年齢や興味に合った、おすすめの絵本を選んでくれますよ。

★おすすめの絵本★

◎世代を超えて読み継がれている絵本・昔話の絵本

いないいないばあ（松谷みよ子：作 瀬川康男：絵）
 しょうぼうじどうしゃじぶた（渡辺茂男：作 山本忠敬：絵）
 ももたろう（松居直：文 赤羽末吉：画）
 おおきなかぶ（グリム：作 フェリス・ホフツ：絵）

ぐりとぐら（中川李枝子：作 大村百合子：絵）
 はらぺこあおむし（エルック・カル：作）
 おおきなかぶ（A・トルストイ：再話 佐藤忠良：画）

◎物語の展開がわかりやすい絵本（読み継がれている絵本を中心に）

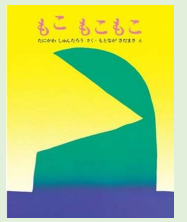
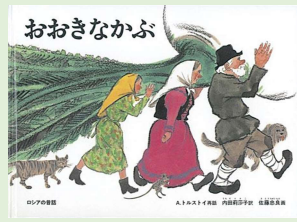
しろくまちゃんのほっとけーき（わかやまけん：作）
 どうぞのいす（香山美子：作 柿本幸造：絵）
 ねずみくんのチョコッキ（なかえよしを：作 上野紀子：絵）

はじめてのおつかい（筒井頼子：作 林明子：絵）
 だるまちゃんくてんぐちゃん（かこさとし：作）

◎言葉のくりかえしが心地よい絵本・子どもに語りかけてくれるような絵本

きんぎょがにげた（五味太郎：作）
 きょだいな きょだいな（長谷川摂子：作 降矢なな：絵）
 だいじょうぶ だいじょうぶ（いとうひろし：作）
 たいせつなこと（マガレット・ワイス・ブラウツ：作 ケート・ワイスガード：絵）

もこもこもこ（谷川俊太郎：作 元永定正：絵）
 100かいだてのいえ（いわいとしお：作）
 トンちゃんってそういうネコ（MAYA MAXX：作）



3. さあ、はじめて みましよう!!

お子さんに“読み聞かせ”をする時は、上手に読もうと意識したり、声色を使ったりする必要はありません。お家の方のいつもの声で、自然に、ゆったりとした気持ちで読みはじめましょう。お子さんと一緒にお話の世界を楽しむことが大切です。

お子さんが最後まで聞けずに、ページをどんどんとばしてしまったり、飽きて絵本から離れてしまったり…。最初のうちはよくあることです。「楽しかったね、また今度、読んでみようか?」と、声をかけてみるなど、無理に引き止めず、時間や日を改めてみましょう。また、別の絵本を読んでもみることも良いでしょう。少しずつ、お子さんに合った時間やお気に入りの絵本を見つけられるようになります。

それでも、なかなか思うように“読み聞かせ”を進められない時は、市立図書館の司書に相談してみることも良いと思います。どうかあせらずに取り組んでみてくださいね。

4. “読み聞かせ”で 心のふれあいを

“読み聞かせ”をしている時間は、親子の距離がぐっと縮まります。そして、信頼関係が生まれます。たとえ短い時間であっても、親子の心がふれあうひとときは、お子さんにとっての安心感につながり、これからの成長へのエネルギーになります。そして、お家の方にとっても、リラックス、リフレッシュにつながり、お子さんへの愛情がさらに深まることでしょう。

最後に、「“読み聞かせ”はいつまで?」という疑問があるかと思いますが、いつまでという決まりはありません。お子さんが「読んで!!」と求めてきたら、ぜひ読んであげましょう。学年が上がったら、読みものの本を、少しずつ読んであげるのも良いと思います。

みなさんにとって、“読み聞かせ”のひとときが、子育てのすてきな思い出に、そしてすてきな宝物となりますよう、心から願っております。